



2020年11月11日

各位

株式会社 I H I
 東京都江東区豊洲三丁目1番1号
 代表取締役社長 井手 博
 (コード番号 7013)
 問合せ先 財務部長 丸山 誠司
 TEL 03 - 6204 - 7065

(訂正)「2020年度(2021年3月期)第2四半期決算説明資料」の一部訂正について

2020年11月10日に発表いたしました「2020年度(2021年3月期)第2四半期決算説明資料」について、誤記がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、訂正箇所は下線にて表示しております。

記

【訂正箇所】

「2020年度(2021年3月期)第2四半期決算説明資料」 4ページ
 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

【訂正前】

(億円)

	'19年度2Q	'20年度2Q	増減
受注高	6,160	4,268	▲1,891
売上高	5,949	<u>▲103</u> 4,828	▲1,121
営業利益	105	<u>▲15</u> ▲61	▲166
経常利益	35	<u>2</u> ▲100	▲136
税金等調整前 四半期純利益	36	▲84	▲121
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲48	▲95	▲46

【訂正後】

(億円)

	'19年度2Q	'20年度2Q	増減
受注高	6,160	4,268	▲1,891
売上高	5,949	<u>▲225</u> 4,828	▲1,121
営業利益	105	<u>▲11</u> ▲61	▲166
経常利益	35	<u>7</u> ▲100	▲136
税金等調整前 四半期純利益	36	▲84	▲121
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲48	▲95	▲46

以上

なお、訂正後の「2020年度(2021年3月期)第2四半期決算説明資料」は添付のとおりです。

2020年度(2021年3月期) 第2四半期決算説明資料

IHI

2020年11月10日

株式会社 IHI



目次

1. 2020年度第2四半期 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益.....	11
特別損益.....	12
連結貸借対照表.....	13
連結キャッシュ・フロー計算書.....	14
補足資料.....	15

2. 2020年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	18
報告セグメント別内訳.....	22
期末配当見通しについて.....	25

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	27
社会基盤・海洋.....	29
産業システム・汎用機械.....	31
航空・宇宙・防衛.....	33

<参考資料>.....	35
-------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2020年度第2四半期 連結決算

1. 2020年度第2四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

日本基準

IHI

'20年度2Q 売上平均レート (米ドル) 107.24円

(億円)

	'19年度2Q	'20年度2Q	増減
受注高	6,160	4,268	▲ 1,891
売上高	5,949	▲225 4,828	▲ 1,121
営業利益	105	▲11 ▲ 61	▲ 166
経常利益	35	7 ▲ 100	▲ 136
税金等調整前 四半期純利益	36	▲ 84	▲ 121
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲ 48	▲ 95	▲ 46

'20年度2Qの売上高, 営業利益, 経常利益の左肩の数値は, 収益認識会計基準(※)適用の影響を示している。

※収益認識会計基準: 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)

'20年度末の国際財務報告基準(IFRS)適用を見据え, 民間向け航空エンジンの受注高の算出方法を変更している。(詳細はP6)

1. 2020年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

日本基準

IHI

(億円)

	受注高			受注残高		
	'19年度2Q	'20年度2Q	増減	'19年度末	'20年度2Q	増減
資源・エネルギー・環境	1,642	1,005	▲ 637	5,212	4,829	▲ 382
社会基盤・海洋	611	656	45	2,296	2,266	▲ 30
産業システム・汎用機械	2,266	1,593	▲ 672	1,908	1,673	▲ 234
航空・宇宙・防衛	1,467	※ 865	▲ 602	4,936	※ 2,160	▲ 2,775
報告セグメント計	5,989	4,122	▲ 1,867	14,354	10,930	▲ 3,424
その他	386	377	▲ 8	266	375	109
調整額	▲ 215	▲ 231	▲ 15	-	-	-
合計	6,160	4,268	▲ 1,891	14,620	11,305	▲ 3,314

海外受注高・受注残高	2,960	1,662	▲ 1,298	6,055	3,266	▲ 2,789
海外受注高・受注残高比率	48%	39%	▲ 9%	41%	29%	▲ 12%

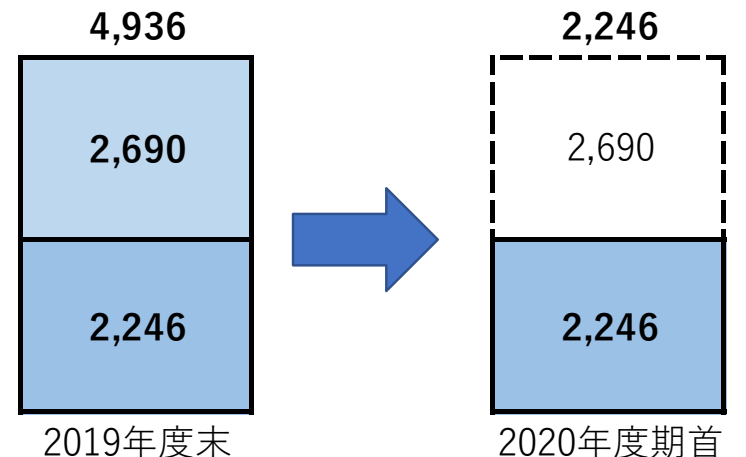
※ '20年度末のIFRS適用を見据え、民間向け航空エンジンの受注高・受注残高の算出方法を変更している。(詳細はP6)

民間向け航空エンジンの受注高・受注残高の算出方法の変更

- 従来(日本基準):
任意開示項目
お客様の生産計画等に基づき受注高・受注残高を算定
- 新方式(2020年度末から適用するIFRS):
履行義務, 残存履行義務に配分した取引価格を開示(IFRS第15号)
残存履行義務(受注残高)をより適切に表す受注高の認識方法へ変更

受注残高への影響
(航空・宇宙・防衛)

民間向け航空エンジン本体・部品



1. 2020年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

日本基準

IHI

(億円)

	売上高			営業利益		
	'19年度2Q	'20年度2Q	増減	'19年度2Q	'20年度2Q	増減
資源・エネルギー・環境	1,402	1,424 ⁴²	22	▲72	41 ^{▲8}	114
社会基盤・海洋	681	654 ³²	▲26	51	48 ²	▲2
産業システム・汎用機械	1,857	1,727 ⁵⁸	▲130	21	20 ⁹	▲1
航空・宇宙・防衛	1,876	968 ^{▲338}	▲907	133	▲155 ^{▲14}	▲289
報告セグメント計	5,817	4,776 ^{▲204}	▲1,041	133	▲44 ^{▲11}	▲178
その他	337	248 ^{▲20}	▲89	8	2 ⁰	▲6
調整額	▲206	▲196	9	▲36	▲18	17
合計	5,949	4,828 ^{▲225}	▲1,121	105	▲61 ^{▲11}	▲166

海外売上高	2,938	1,873	▲1,064
海外売上高比率	49%	39%	▲10%

'20年度2Qの売上高、営業利益の左肩の数値は、収益認識会計基準適用の影響を示している。

1. 2020年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(営業利益の前期比増減要因)

日本基準

IHI

(億円)

	新型コロナ ウイルス感染 拡大の影響	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変動	収益認識 会計基準 適用の影響	合計
資源・エネルギー・環境		42	68		12	▲ 8	114
社会基盤・海洋		▲ 5	▲ 3		4	2	▲ 2
産業システム・汎用機械	▲ 30	▲ 1			21	9	▲ 1
航空・宇宙・防衛	※▲ 310	▲ 10	7	▲ 3	41	▲ 14	▲ 289
報告セグメント計	▲ 340	26	72	▲ 3	79	▲ 11	▲ 177
その他		▲ 12	▲ 4		10		▲ 6
調整額					17		17
合計	▲ 340	14	68	▲ 3	107	▲ 11	▲ 166

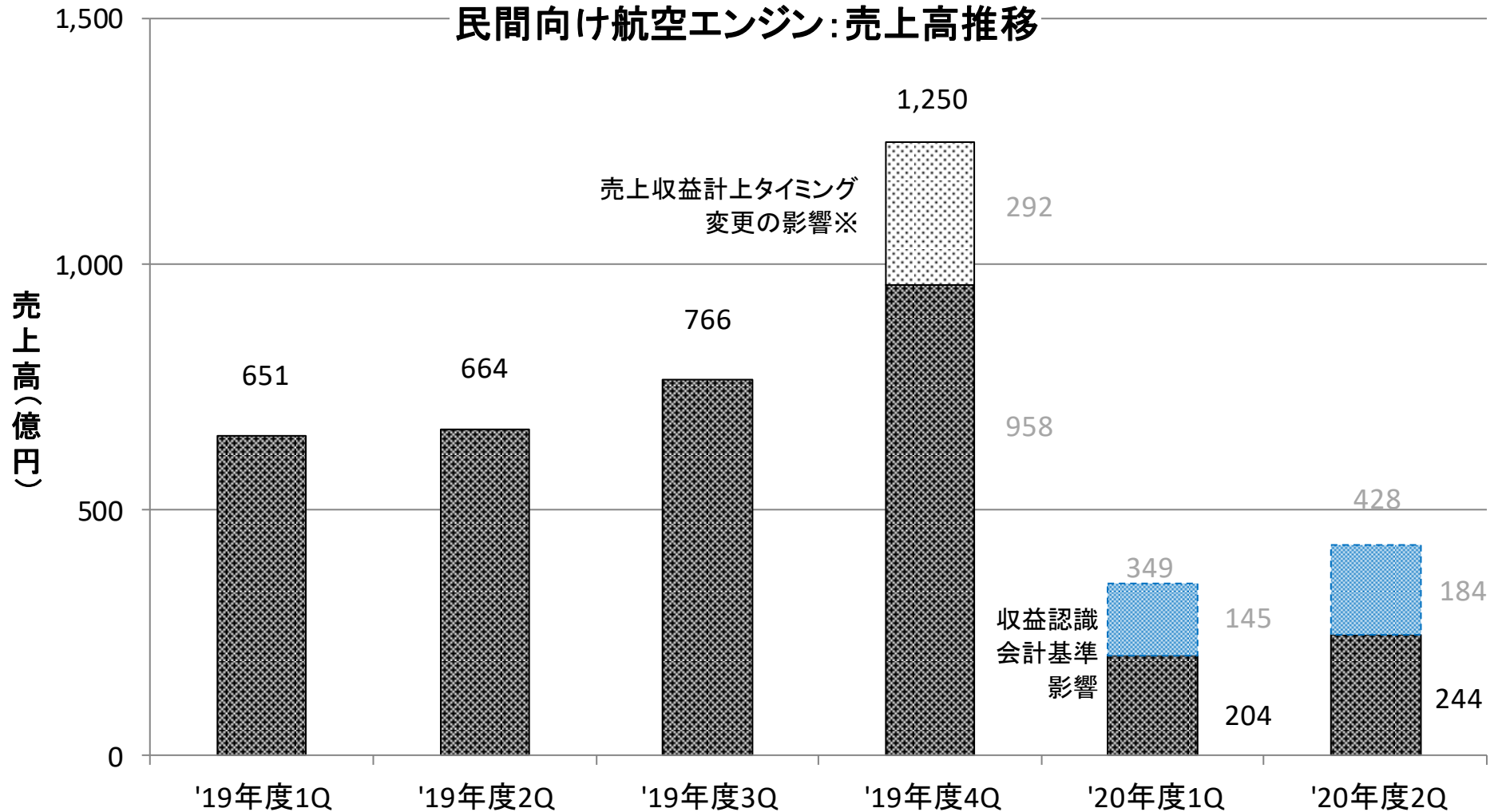
報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

※PL影響▲310億円に加え、原価差額▲50億円が棚卸資産に計上されている。

1. 2020年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(新型コロナウイルス感染拡大の影響)

日本基準

IHI



- ・前年同期に対してエンジン及びスペアパーツの販売減少により累計40.9%の減収
- ・'20年度1Qに対しては回復傾向

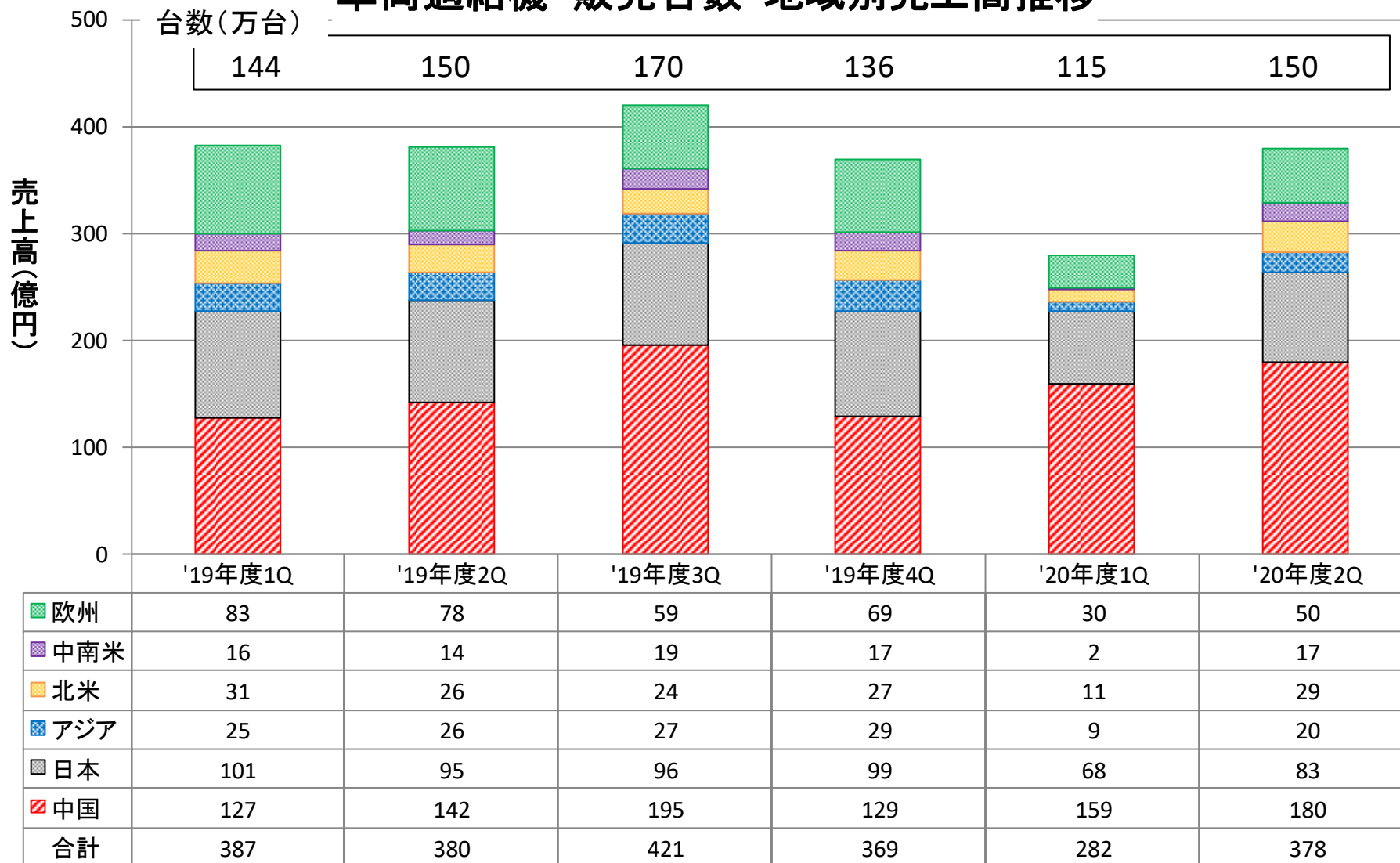
※民間向け航空エンジンについて、1か月遅れで認識していた売上収益を同月に計上することに変更した影響

1. 2020年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(新型コロナウイルス感染拡大の影響)

日本基準

IHI

車両過給機 販売台数・地域別売上高推移



前年同期に対して、中国での販売台数、売上高は増加。他地域も'20年度1Qより回復

1. 2020年度第2四半期 連結決算 営業外損益

日本基準

IHI

(億円)

	'19年度2Q	'20年度2Q	増減
金融収支	▲ 10	▲ 8	2
持分法による投資損益	▲ 24	4	28
為替差損益	▲ 10	▲ 20	▲ 10
その他	▲ 24	▲ 15	8
営業外損益	▲ 69	▲ 39	30

期末日レートの変動(米ドル) '19年度2Q ▲3.07円 (期首110.99円→2Q末107.92円)
'20年度2Q ▲3.05円 (期首108.83円→2Q末105.78円)

1. 2020年度第2四半期 連結決算 特別損益

日本基準

IHI

(億円)

	'19年度2Q	'20年度2Q	増 減
固定資産売却益	45	16	▲ 29
保険差益	11	—	▲ 11
特別利益	56	16	▲ 40
減損損失	▲ 1	0	0
投資有価証券評価損	▲ 55	—	55
特別損失	▲ 56	0	55
特別損益	0	15	15

1. 2020年度第2四半期 連結決算 連結貸借対照表

日本基準

IHI

(億円)

	'19年度末	'20年度2Q末	増減
資産合計	17,407	16,664	▲ 743
(うち 現預金)	(1,472)	(862)	(▲ 609)
(うち 売上債権, 契約資産)	(4,038)	(3,742)	(▲ 296)
(うち 棚卸資産)	(4,455)	(4,555)	(99)
負債合計	13,870	12,962	▲ 907
(うち 仕入債務)	(2,625)	(2,133)	(▲ 492)
(うち 契約負債)	(1,517)	(1,628)	(110)
(うち 有利子負債残高)	(4,881)	(5,217)	(335)
純資産合計	3,537	3,701	163
株主資本	3,292	3,444	152
その他の包括利益累計額	▲ 28	▲ 27	1
非支配株主持分等	273	283	10
負債・純資産合計	17,407	16,664	▲ 743
D/Eレシオ (※)	1.38倍	1.41倍	0.03倍
自己資本比率	18.7%	20.5%	1.8%

有利子負債残高には、リース債務残高('19年度末:273億円, '20年度2Q末:305億円)を含んでいる。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

収益認識会計基準適用により、期首の株主資本(利益剰余金)が274億円増加

1. 2020年度第2四半期 連結決算 連結キャッシュ・フロー計算書

日本基準

IHI

(億円)

	'19年度2Q	'20年度2Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	▲ 328	▲ 557	▲ 228
投資キャッシュ・フロー	▲ 396	▲ 269	126
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 724	▲ 827	▲ 102
財務キャッシュ・フロー	416	209	▲ 207

(1) 研究開発費・設備投資額・減価償却費

【実績】

(億円)

	'19年度2Q	'20年度2Q
研究開発費	154	110
設備投資額	384	172
減価償却費	252	286

設備投資額、減価償却費は、有形固定資産およびソフトウェアに係る金額を示している。

※設備投資、研究開発の一部凍結・抑制により減少

【'20年度通期見通し】

(億円)

	IFRS	(参考)日本基準
研究開発費	290	260
設備投資額	540	480
減価償却費	700	580

※1 開発後の返済条件付き助成金を純額処理から金融取引(負債計上)に変更している。

※2 日本基準におけるオペレーティング・リースを含む。

(2) 海外売上高

(億円)

	'19年度2Q	'20年度2Q
アジア	556	521
中国	415	489
北米	1,558	575
中南米	41	28
欧州	345	221
その他	21	36
合計	2,938	1,873
海外売上高比率	49%	39%

※

※主として民間向け航空エンジンの減少

2. 2020年度 連結業績見通し

2. 2020年度 連結業績見通し 通期業績見通し

IFRS

IHI

- 2020年度末決算より、IFRSを任意適用するため、通期業績見通しはIFRSに基づき作成している。

前提為替レート 米ドル 105円
(第3四半期以降) ユーロ 120円

(億円)

	IFRS			(参考) 日本基準
	'19年度 実績※2	'20年度 見通し	増減	'20年度 見通し
受注高	12,800	11,000	▲1,800	11,000
売上収益	12,590	11,500	▲1,090	11,500
営業利益※1	480	200	▲280	80
経常利益	-	-	-	▲50
親会社の所有者に 帰属する当期利益	70	10	▲60	0

(参考) 為替感応度(為替相場の1円の変動により、営業利益に与える影響額)：米ドル 3億円

※1 IFRSベースの営業利益＝売上総利益－販管費＋(日本基準における)金融損益以外の営業外損益・特別損益

※2 IFRSベースの前年度実績は監査法人による監査前の試算であるため概数表示

2. 2020年度 連結業績見通し 売上収益・営業利益 前年度比増減要因

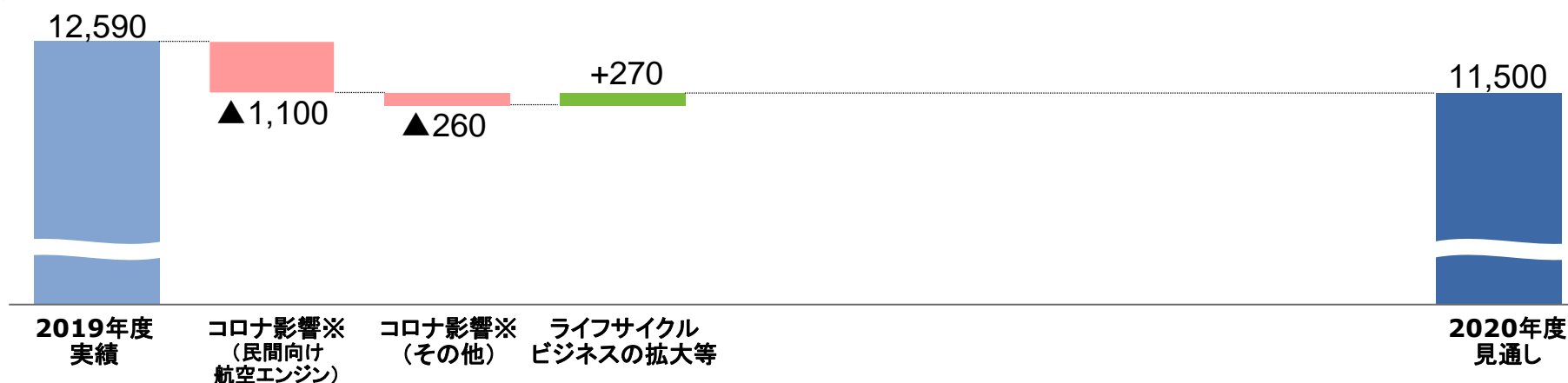
IFRS

IHI

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、民間向け航空エンジンで大幅な減収・減益
- 売上減少に対応した販管費削減と筋肉質な企業体質への転換に向けたコスト構造の強化を推進

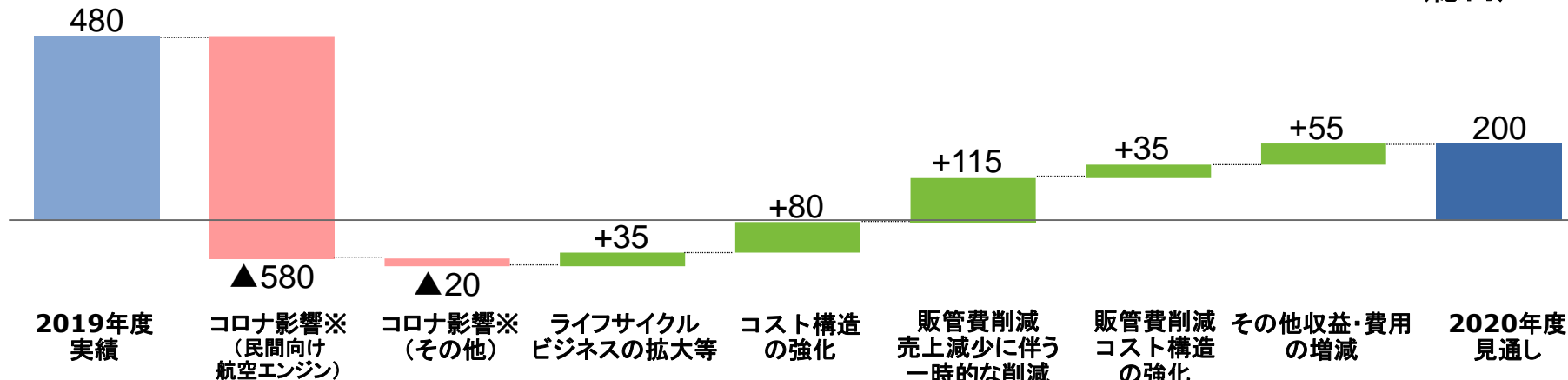
(1) 売上収益

(億円)



(2) 営業利益

(億円)



新型コロナウイルス感染拡大の影響の内訳は次ページ参照

2. 2020年度 連結業績見通し 新型コロナウイルス感染拡大の影響の内訳

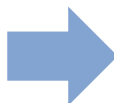
IFRS

IHI

(億円)

	売上収益	営業利益
① 民間向け航空エンジン(航空・宇宙・防衛)	▲1,100	▲580

民間航空旅客需要
の急激かつ大幅な減少



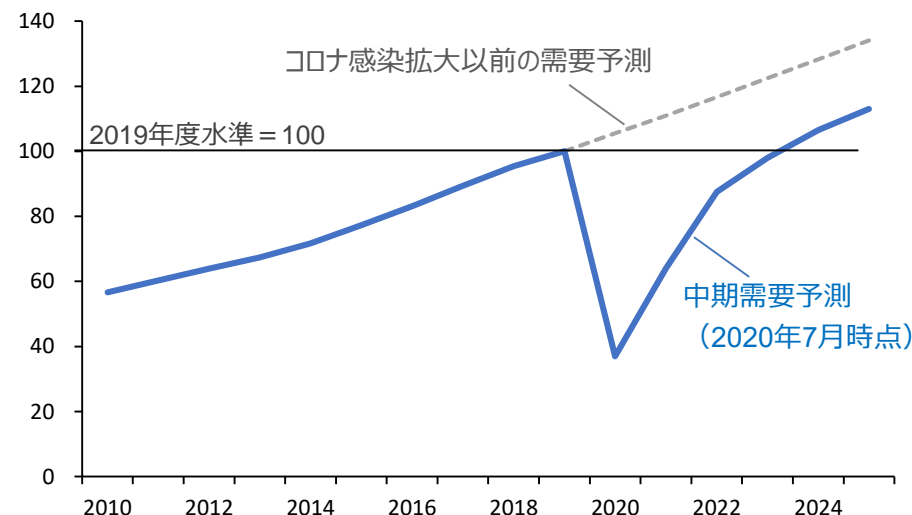
- 民間向け航空エンジンの売上収益は前年度比ほぼ半減
- 特に、採算性の高いアフターマーケット(スペアパーツ)の売上収益減少により営業利益が大きく減少
- 新製エンジンの生産台数減少に伴う操業差損の発生

業績見通しの前提条件

- 国際航空運送協会(IATA)による需要予測に加え、事業パートナーから得た情報等に基づき、業績見通しを算定。

【IATAによる需要予測】

- ✓ 2020年の世界の航空旅客需要は、前年比で66%減少(2020年7月時点の予測からさらに**3ポイント悪化**)。
- ✓ 2019年の水準に需要が回復するのは2024年。



出所: IATA, 28th July 2020

※予測値はRPK(有償旅客キロ)ベース

2. 2020年度 連結業績見通し 新型コロナウイルス感染拡大の影響の内訳

IFRS

IHI

(億円)

	売上収益	営業利益
② その他	▲260	▲20
● 車両過給機(産業システム・汎用機械)	▲140	-

自動車関連需要の減退



- 中国以外の地域で販売減少
- ただし、中国市況の回復による販売増および固定費削減の効果により、全体では増益の見込み。

- 熱・表面処理(産業システム・汎用機械)

▲70

▲20

主として
自動車関連需要の減退

- 自動車部品向けの受託加工サービス等の売上減少

- 上記以外(東南アジアを拠点とする一部の子会社等)

▲50

-

上記以外の事業においても、お客さまの設備投資計画の延期・見直し等により、受注・売上収益が一定程度、減少する見込みであるが、損益に与える影響は軽微

2. 2020年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

IFRS

IHI

(億円)

	IFRS			(参考) 日本基準
	'19年度 実績※1	'20年度 見通し	増減	'20年度 見通し
資源・エネルギー・環境	3,170	3,200	30	3,200
社会基盤・海洋	1,970	1,400	▲570	1,400
産業システム・汎用機械	4,200	3,700	▲500	3,700
航空・宇宙・防衛	3,220	※2 2,500	▲720	2,500
報告セグメント計	12,560	10,800	▲1,760	10,800
その他	730	700	▲30	700
調整額	▲490	▲500	▲10	▲500
合計	12,800	11,000	▲1,800	11,000

※1 IFRSベースの前年度実績は監査法人による監査前の試算であるため概数表示

※2 '20年度より民間向け航空エンジンの受注高の算出方法を見直している。

なお、'19年度の受注高へ与える影響は軽微である。

2. 2020年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(売上収益・営業利益通期見通し)

IFRS

IHI

(億円)

	IFRS						(参考) 日本基準	
	売上収益			営業利益			売上高	営業利益
	'19年度 実績※	'20年度 見通し	増減	'19年度 実績※	'20年度 見通し	増減	'20年度 見通し	'20年度 見通し
資源・エネルギー・環境	3,250	3,500	250	40	160	120	3,500	160
社会基盤・海洋	1,490	1,500	10	130	150	20	1,500	160
産業システム・汎用機械	4,040	3,800	▲240	130	120	▲10	3,800	110
航空・宇宙・防衛	3,650	2,500	▲1,150	210	▲340	▲550	2,500	▲330
報告セグメント計	12,430	11,300	▲1,130	510	90	▲420	11,300	100
その他	670	700	30	70	30	▲40	700	30
調整額	▲510	▲500	10	▲100	80	180	▲500	▲50
合計	12,590	11,500	▲1,090	480	200	▲280	11,500	80

※IFRSベースの前年度実績は監査法人による監査前の試算であるため概数表示

2. 2020年度 連結業績見通し

報告セグメント別内訳(営業利益の前年度比増減要因)

IFRS

IHI

(億円)

	新型コロナ ウイルス感染 拡大の影響	売上収益の 増減	工事採算 の変動	販管費の 変動	その他損益 の増減	合 計
資源・エネルギー・環境		30	70	25	▲ 5	120
社会基盤・海洋		5	15			20
産業システム・汎用機械	▲ 20		5	25	▲ 20	▲ 10
航空・宇宙・防衛	▲ 580		▲ 10	50	▲ 10	▲ 550
報告セグメント計	▲ 600	35	80	100	▲ 35	▲ 420
そ の 他					▲ 40	▲ 40
調 整 額				50	(※) 130	180
合 計	▲ 600	35	80	150	55	▲ 280

(※)事業ポートフォリオの変革への投資原資を確保するための資産売却の効果および業績変動リスクに備えたバッファを計上している。

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

2. 2020年度 連結業績見通し 期末配当見通しについて

当社は、安定的に配当を実施することを基本としつつ、配当金額については、企業価値の向上のための投資と自己資本の充実・強化などを総合的に勘案したうえで、連結配当性向30%程度を目安として決定することとしております。

しかしながら、2020年度の期末の剰余金の配当予想については、当期の業績予想の利益水準に鑑み、誠に遺憾ながら、無配とさせていただきます。

1株当たり配当金

	中間配当	期末配当	年間配当
前年度実績	30円	20円	50円
当年度見通し	0円(実績)	0円	0円

3. 報告セグメント別の概況

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

日本基準

IFRS

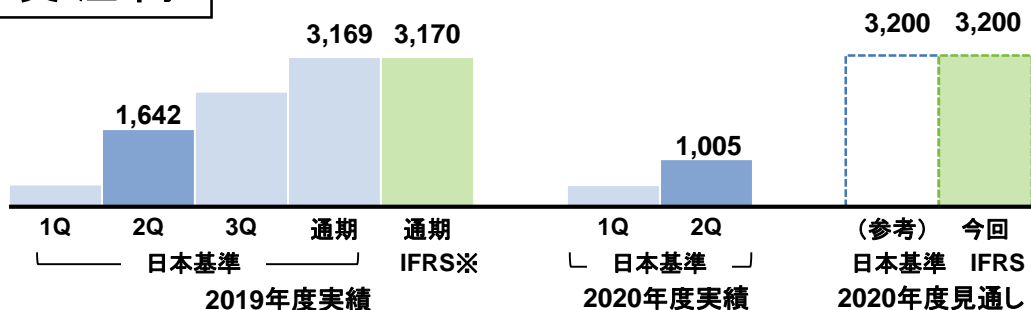
IHI

(億円/各期の金額は累計)

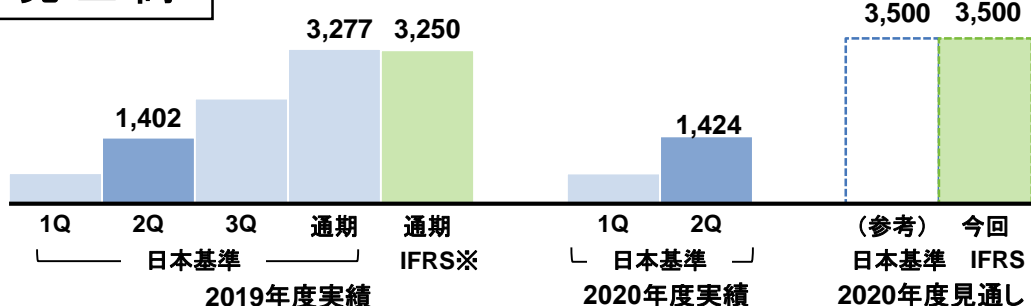
(参考)日本基準ベースの2020年度見通し

主要事業:原動機, ボイラ, プラント, 原子力

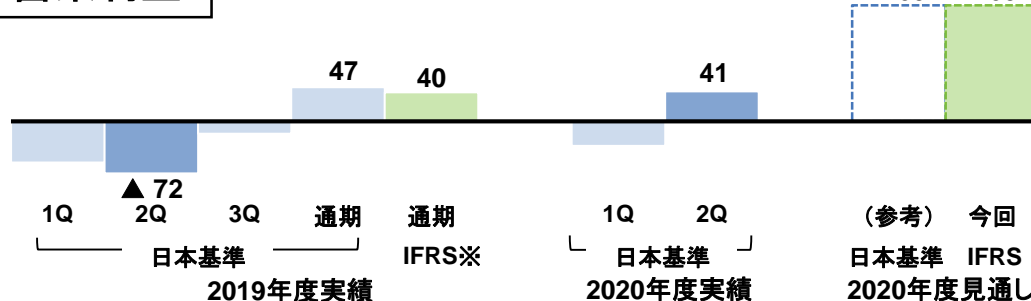
受注高



売上高



営業利益



実績(対前年同期)

日本基準

【受注高】

ボイラで前年同期に大型工事を受注した反動で減少。

【売上高】

ボイラで増収。

【営業利益】

ボイラの増収による増益および、前年同期の原動機、ボイラ、プラントでの採算性低下の収束により、黒字に転換。

通期見通し(対前年度)

IFRS

- ボイラ, 原動機で増収。
- 上記影響に加え、前年度の原動機, ボイラ, プラントの採算性低下の収束により, 大幅増益。

<うち, 新型コロナウイルス感染拡大の影響>

- 東南アジアを拠点とする一部の子会社において, お客さまのプロジェクトの計画延期等に伴い, 受注・売上収益が減少する見込み(利益影響は軽微)。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

日本基準

IFRS

IHI

(億円)

	受注高				売上高								
	'19年度		'20年度		'19年度				'20年度				
	通期 日本基準	通期 IFRS	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS
原 動 機	826	830	770	770	179	360	534	861	830	188	383	950	950
ボ イ ラ	956	960	720	720	168	448	702	984	950	200	519	1,090	1,090
プ ラ ン ト	321	320	560	560	138	266	392	564	570	95	202	440	440
原 子 力	362	360	440	440	48	89	135	279	320	52	100	360	360

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

日本基準

IFRS

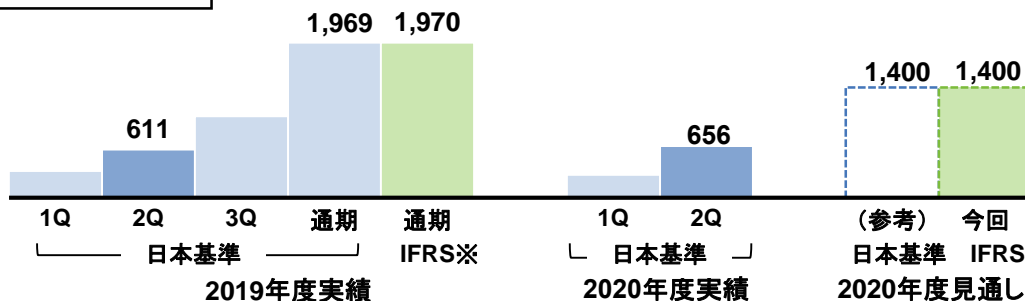
IHI

(億円/各期の金額は累計)

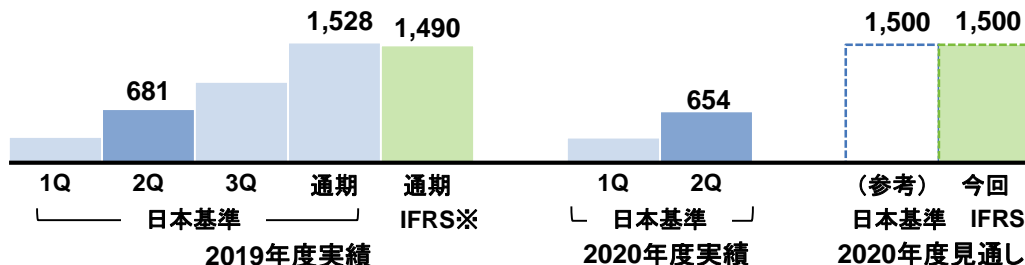
(参考)日本基準ベースの2020年度見通し

主要事業: 橋梁・水門, 交通システム, シールドシステム,
コンクリート建材, 都市開発

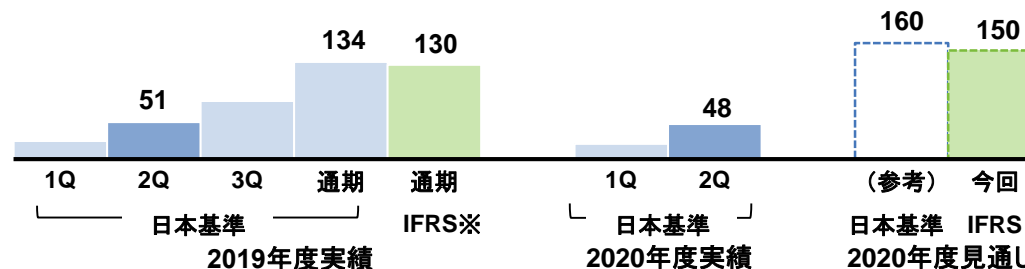
受注高



売上高



営業利益



実績(対前年同期)

日本基準

【受注高】

交通システムで減少。橋梁・水門, 都市開発で増加。

【売上高】

都市開発で増収となったものの, 橋梁・水門で前年同期に大型案件を引き渡した影響で減収。

【営業利益】

都市開発の増収による増益があったものの, 橋梁・水門は減収に伴い減益。

通期見通し(対前年度)

IFRS

- 橋梁・水門で, 前年度に海外向けの大型案件を受注した反動で, 受注が減少。
- 交通システムの採算改善等により増益。

<うち, 新型コロナウイルス感染拡大の影響>

- 橋梁・水門で受注・収益の翌期以降へ後ろ倒しとなるリスクがあるものの, 影響額は限定的。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

日本基準

IFRS

IHI

(億円)

	受注高				売上高								
	'19年度		'20年度		'19年度				'20年度				
	通期 日本基準	通期 IFRS	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS
橋梁・水門	1,111	1,110	640	640	192	382	575	835	800	151	312	720	720
シールドシステム	236	240	170	170	46	97	120	155	160	35	91	180	180
都市開発	165	170	220	220	39	79	118	165	170	66	114	220	220

※「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P42、P43の＜参考資料＞を参照

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

日本基準

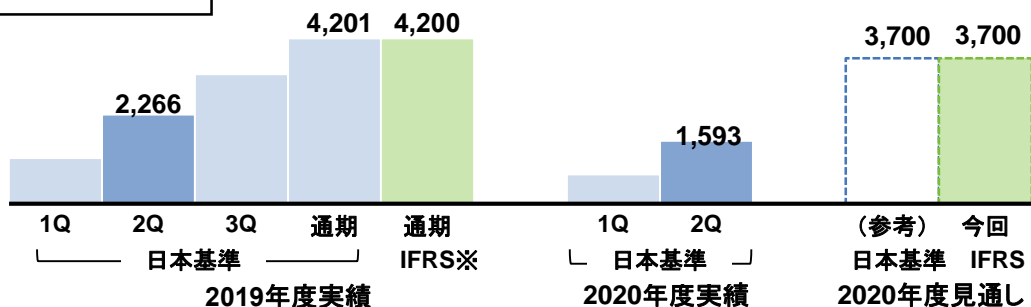
IFRS

IHI

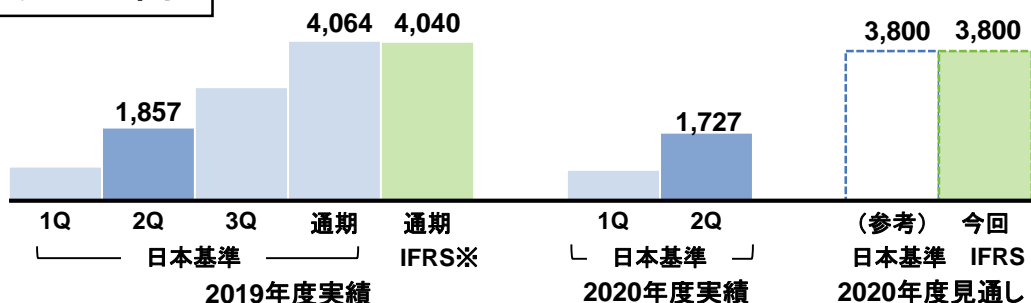
(億円/各期の金額は累計)
(参考)日本基準ベースの2020年度見通し

主要事業:車両過給機, パーキング, 回転機械, 熱・表面処理,
運搬機械, 物流・産業システム

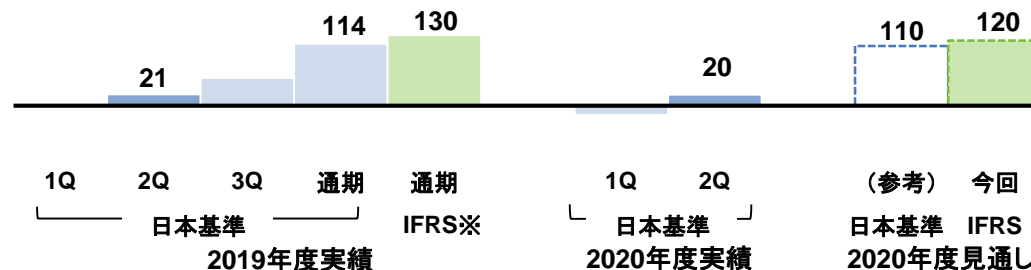
受注高



売上高



営業利益



実績(対前年同期)

日本基準

【受注高】

前年同期に大型案件の受注があった運搬機械に加えて、車両過給機や熱・表面処理で減少。

【売上高】

運搬機械で増収になったものの、車両過給機や熱・表面処理で減収。

【営業利益】

運搬機械で増収により増益, 熱・表面処理で減収により減益。車両過給機は減収となったものの, 固定費削減効果で前年同期並み。

通期見通し(対前年度)

IFRS

- 前年度に大型案件の受注があった運搬機械に加えて、車両過給機や熱・表面処理で受注が減少。
- 熱・表面処理で減収・減益となるものの、車両過給機で減収・増益となり、営業利益はほぼ前年度並み。

<うち、新型コロナウイルス感染拡大の影響>

- 自動車部品や航空機部品向けの受託加工を主体とする熱・表面処理で、需要減により減収・減益。
- 車両過給機は、中国以外の地域で販売減少。ただし、中国市況の回復による販売増および固定費削減の効果により、全体では増益の見込み。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

日本基準

IFRS

IHI

(億円)

	受注高				売上高								
	'19年度		'20年度		'19年度				'20年度				
	通期	通期	通期	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	通期	1Q	2Q累計	通期	通期
	日本基準	IFRS	日本基準	IFRS				日本基準	IFRS			日本基準	IFRS
車両過給機	1,555	1,560	1,400	1,400	387	767	1,188	1,557	1,540	282	660	1,400	1,400
パーキング	534	530	470	470	100	220	339	530	530	94	205	490	490
回転機械	513	510	440	440	104	211	335	490	480	103	230	480	480
熱・表面処理	322	320	310	310	98	197	291	377	380	67	137	310	310
運搬機械	612	610	300	300	37	92	177	290	310	102	200	420	420

※「車両過給機」の詳細は、P41の<参考資料>を参照

<車両過給機の販売台数>

(万台)

販売年度	2Q	通期
'19年度	294	600
'20年度	265	540

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

日本基準

IFRS

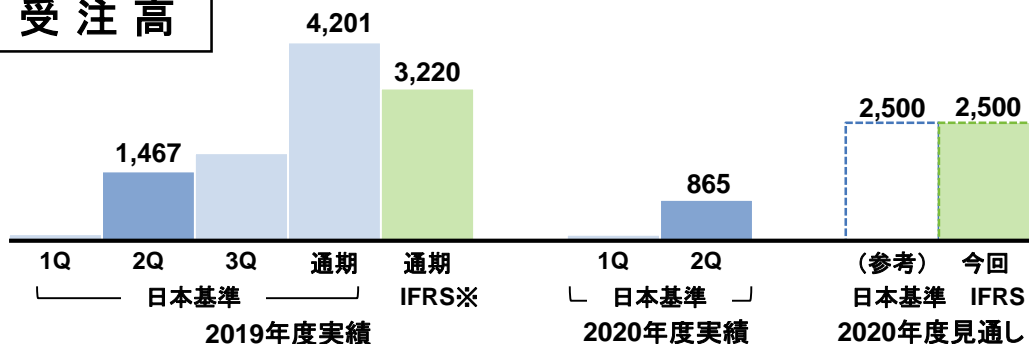
IHI

(億円/各期の金額は累計)

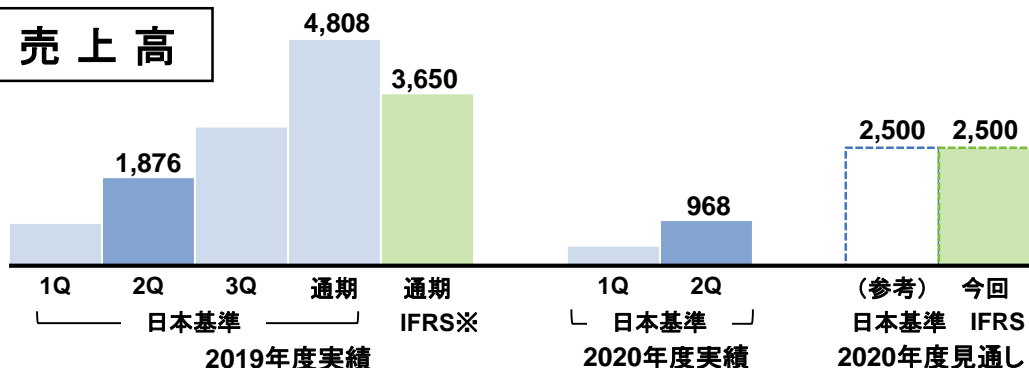
(参考)日本基準ベースの2020年度見通し

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

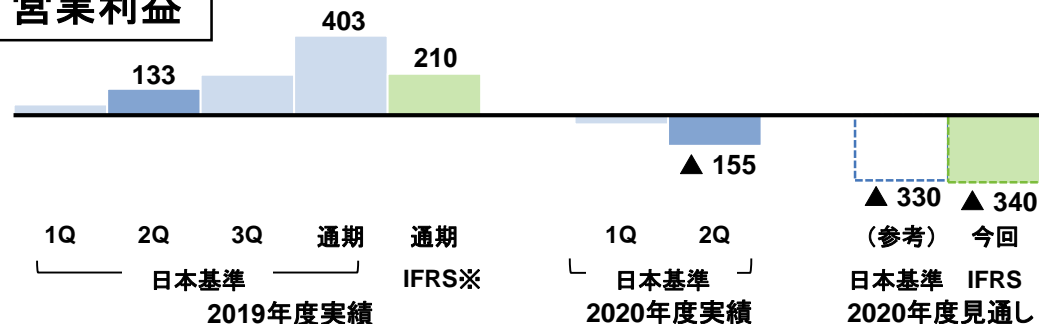
受注高



売上高



営業利益



実績(対前年同期)

日本基準

【受注高】

民間向け航空エンジンで減少。

【売上高】

新型コロナウイルス感染拡大の影響による旅客需要の減少, 収益認識会計基準適用により, 民間向け航空エンジンで大幅減収。

【営業利益】

固定費の削減等に取り組んだものの, 減収により営業赤字。1Qに対し, 民間向け航空エンジンで, 緩やかな回復基調を受け, 初期負担の重い新製エンジンの販売台数が増加したことなどにより, 赤字幅が拡大。

通期見通し(対前年度)

IFRS

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響による旅客需要の減少により, 民間向け航空エンジンで大幅減収。
- 主に民間向け航空エンジンのスペアパーツの販売減少により, 民間向け航空エンジンで大幅減益。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

日本基準

IFRS

IHI

(億円)

	受注高				売上高								
	'19年度		'20年度		'19年度				'20年度				
	通期 日本基準	通期 IFRS	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS
	民間向け 航空エンジン	3,082	2,180	1,000	1,000	651	1,315	2,081	3,331	2,180	204	448	1,000
(参考)収益認識会計基準適用影響を除いた実績:										349	777		

※「民間向け航空エンジン」の詳細は、P40の<参考資料>を参照

<民間向け航空エンジンの販売台数> (台)

販売年度	2Q	通期
'19年度	700	1,571
'20年度	403	850

<参考資料>

- ・業績の推移
- ・海外大型案件の進捗状況
- ・当第2四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

	日本基準 2016年度	日本基準 2017年度	日本基準 2018年度	日本基準 2019年度	日本基準 2020/2Q	IFRS 2020年度 (見通し)
売上高	14,683億円	15,903億円	14,834億円	13,865億円	4,828億円	11,500億円
営業利益率 営業利益	3.2% 473億円	4.5% 722億円	5.6% 824億円	4.4% 607億円	▲1.3% ▲61億円	1.7% 200億円
経常利益	220億円	214億円	657億円	322億円	▲100億円	
親会社株主に 帰属する当期純利益	52億円	82億円	398億円	128億円	▲95億円	10億円
ROIC (※1)	5.0%	7.7%	8.7%	5.7%		
CCC (※2)	87日	83日	97日	120日		
D/Eレシオ (※3)	1.10倍	0.92倍	0.93倍	1.38倍	1.41倍	
ROE (※4)	1.6%	2.6%	11.8%	3.8%		
配当	0円/株	中間3円/株 期末30円/株 (期末は、株式併合 後)	70円/株 (中間30円, 期末40円)	50円/株 (中間30円, 期末20円)	0円/株	0円/株
為替レート	108.27円/\$	111.00円/\$	111.09円/\$	109.16円/\$	107.24円/\$	

※1：ROIC(投下資本利益率)=税引後(営業利益+受取利息・配当金)÷(自己資本+有利子負債)

※2：CCC=運転資本÷売上高×365日

※3：D/Eレシオ=有利子負債÷純資産

※4：ROE(自己資本利益率)=親会社株主に帰属する当期純利益÷(前期末・当期末平均 自己資本)

エルバ天然ガス液化設備



完了状況

<プロジェクト概要>

- ・契約内容：エルバ島 天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地：米国ジョージア州 チャタム郡 サバンナ エルバ島
- ・担当範囲：年産約250万トンの液化設備の設計 (液化モジュールはお客様支給)、建設、試運転

<主要工程>

- 2016年3月： 契約締結
- 2016年11月： FERC (米国連邦エネルギー規制委員会) の建設許可承認
- 2017年2月： No.1トレイン液化モジュール (MMLS) 現着開始
- 2019年9月： No.1トレイン 商業運転開始
- 2020年8月26日： **プラント全体引き渡し**

MMLS: Movable Modular Liquefaction System
 液化トレインはプラント全体で10トレインあり、1トレインは79モジュールで構成

<2020年9月30日時点の進捗状況>

2020年8月26日にプラント全体の引き渡しを完了し、同日にお客さまによるLNG出荷設備の商業運転を開始した。

MMLS No.	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8	#9	#10
Mechanical Completion	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
試運転開始 (進捗%)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
商業運転開始	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

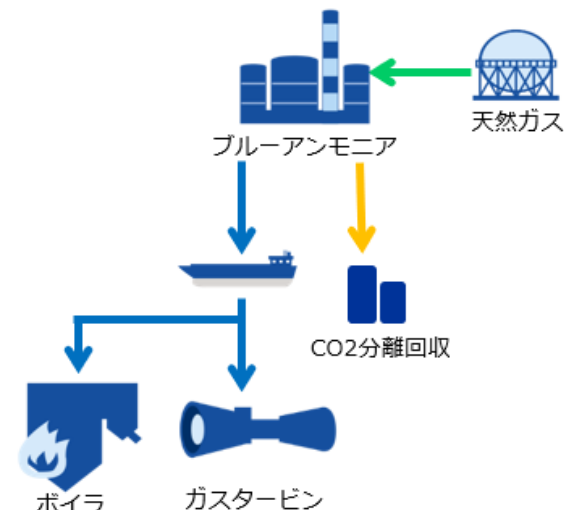
※赤文字は2020年度1Q以降の進捗

世界初、カーボンニュートラルな「ブルーアンモニア」を利用する混焼試験を実施

IHIは、一般財団法人日本エネルギー経済研究所とサウジアラビアン・オイル・カンパニーが進める、ブルーアンモニアのサプライチェーン実証試験に協力しています。ブルーアンモニアは、天然ガスからアンモニアを製造する際に排出されるCO₂を分離回収したカーボンニュートラルな燃料です。

IHIは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託事業で、アンモニア混焼技術の高度化に取り組んでいます。このたび、ガスタービンで、熱量比率50%以上のアンモニア混焼を目指した試験の一部として、ブルーアンモニアを使用した混焼試験を開始しました。また、石炭火力用ボイラでも、大容量燃焼試験設備での微粉炭との混焼試験で使用しました。これらは、ブルーアンモニアを用いた世界初の混焼試験です。

今回の試験は燃料製造側と利用側をつなげる重要な一歩です。IHIは、アンモニアのエネルギー利用による脱CO₂への貢献を目指し、開発を進めてまいります。



＜ブルーアンモニア混焼試験の全体像＞

福島県相馬市にCO₂フリー水素研究棟「そうまラボ」を開所



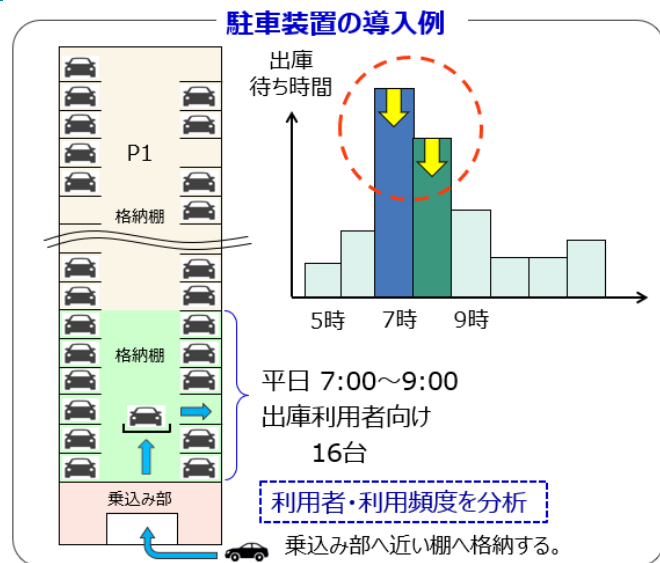
＜そうまラボ 外観＞

IHIは、2018年に「そうまIHIグリーンエネルギーセンター」(以下「SIGC」)を開設し、再生可能エネルギーを活用したスマートコミュニティ事業を実施しています。このたび、SIGCにおいて、CO₂フリー水素を活用した研究を推進する水素研究棟「そうまラボ」を開所しました。

「そうまラボ」では、SIGCの太陽光発電電力で製造した水素を使用し、将来の水素社会を見据えた水素利用・化学品への転換技術研究・実証試験等を実施していきます。また、オープンイノベーションの場として、研究機関や企業にも公開する他、地域の学校の体験学習の場としても提供し、科学・エネルギーを身近な存在にするための活動も行なっていきます。

IHIは、本事業により再生可能エネルギーの地産地消の実現と地域主導の新たな自律事業モデルを創出し、新しいまちづくりの一助となることを目指して、事業構築の推進に取り組んでいきます。

業界初 AI, 3D センサによる快適なエレベータパーキングの販売開始



IHI運搬機械株式会社は、機械式駐車装置の快適性を向上させた「エレベータパーキング グランシリーズ」を開発し、販売を開始しました。

- 特徴①:「AIによる出庫待ち時間の短縮機能」
利用者の日々の利用状況を学習し、出庫ピーク時間帯を予測することで、待ち時間の短縮に最も効果がある格納棚へ車を自動配置。
- 特徴②:「3Dセンサによる庫内安全確認機能」
独自の3Dセンサシステムで、庫内の安全を確認し自動で扉を閉めるため、「扉閉め忘れ」によるトラブルを防止。
- 特徴③:「ゆとりのある駐車空間」
「どんな車でも止められる」ことを目指し、入庫可能車サイズをアップ。
今後も、常に「次の駐車場のあり方」を追求し、多様なニーズに対し、最適なソリューションを提供すべく取り組んでまいります。

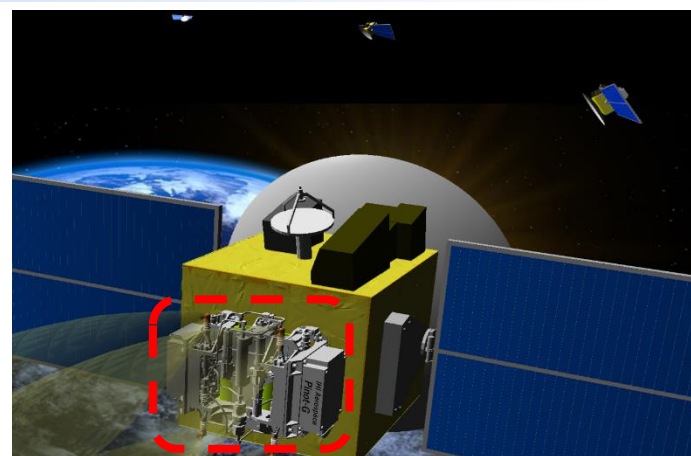
宇宙環境と人工衛星ユーザーにやさしい小型衛星用推進装置を開発

株式会社IHIエアロスペースは、小型衛星ユーザーが、より簡単・安全に利用できる推進装置「Pinot-G」を開発しています。

近年、人工衛星の小型化・低コスト化を受け、ビジネスでの活用が広がっています。2020年代には約1万基の打上げが見込まれる一方で、宇宙ゴミとの衝突により衛星が破壊されるリスクも増大しています。

この「Pinot-G」は、衛星の軌道変更・維持に使われ、宇宙ゴミとの衝突を短時間で回避することが可能です。独自開発の低毒性燃料を用いるため、燃料充填状態でも飛行機で輸送可能であること、地上で加圧せずに打上げ後に加圧するため、高圧ガス法規制の対象外となり、作業性が向上することが特徴です。

衛星を利用するビジネスは、気候変動や防災など社会課題の解決につながる期待されます。今後とも、ロケットや衛星の推進技術を生かし、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



<小型衛星用推進装置の搭載イメージ>

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績								見通し	
	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19年度		'20年度	
							2Q	通期	2Q累計	通期
売上高	2,260	2,670	2,991	2,915	2,810	3,185	1,315	3,331	448	1,000

(参考) 収益認識会計基準適用影響を除いた実績:

777

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)										主要搭載機
	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20/2Q	
V2500	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,236	7,508	7,688	7,735	7,735	エアバス A319/320/321
GE90	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,457	2,617	2,715	2,824	2,854	ボーイング B777
CF34	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,821	5,085	5,331	5,611	5,691	リージョナルジェット (70~110席級)
GENx	118	259	468	751	1,035	1,295	1,542	1,826	2,159	2,261	ボーイング B787/B747-8
PW1100G					16	148	398	1,058	1,784	1,958	エアバス A320Neo
Passport20							13	66	142	159	ボンバルディア社 Global7500
合計	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,957	17,163	18,684	20,255	20,658	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なる

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績										見通し
	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19年度		'20年度	
								2Q累計	通期	2Q累計	通期
日 本	339	353	375	346	389	398	446	196	391	151	340
ア ジ ア	248	298	275	216	158	117	110	51	107	29	80
中 国	181	234	243	249	485	719	631	269	593	339	620
北 米	13	16	18	24	33	84	116	57	108	40	100
中 南 米	0	0	7	34	61	74	75	30	66	19	60
欧 州	432	602	756	743	617	811	513	161	289	80	200
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
合 計	1,216	1,507	1,677	1,616	1,746	2,205	1,895	767	1,557	660	1,400

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績										見通し
	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19年度		'20年度	
								2Q累計	通期	2Q累計	通期
賃貸収入	92	91	93	101	93	92	93	46	94	61	123

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'20年度2Q	61	20	16	24

豊洲1~3丁目地区 開発マップ

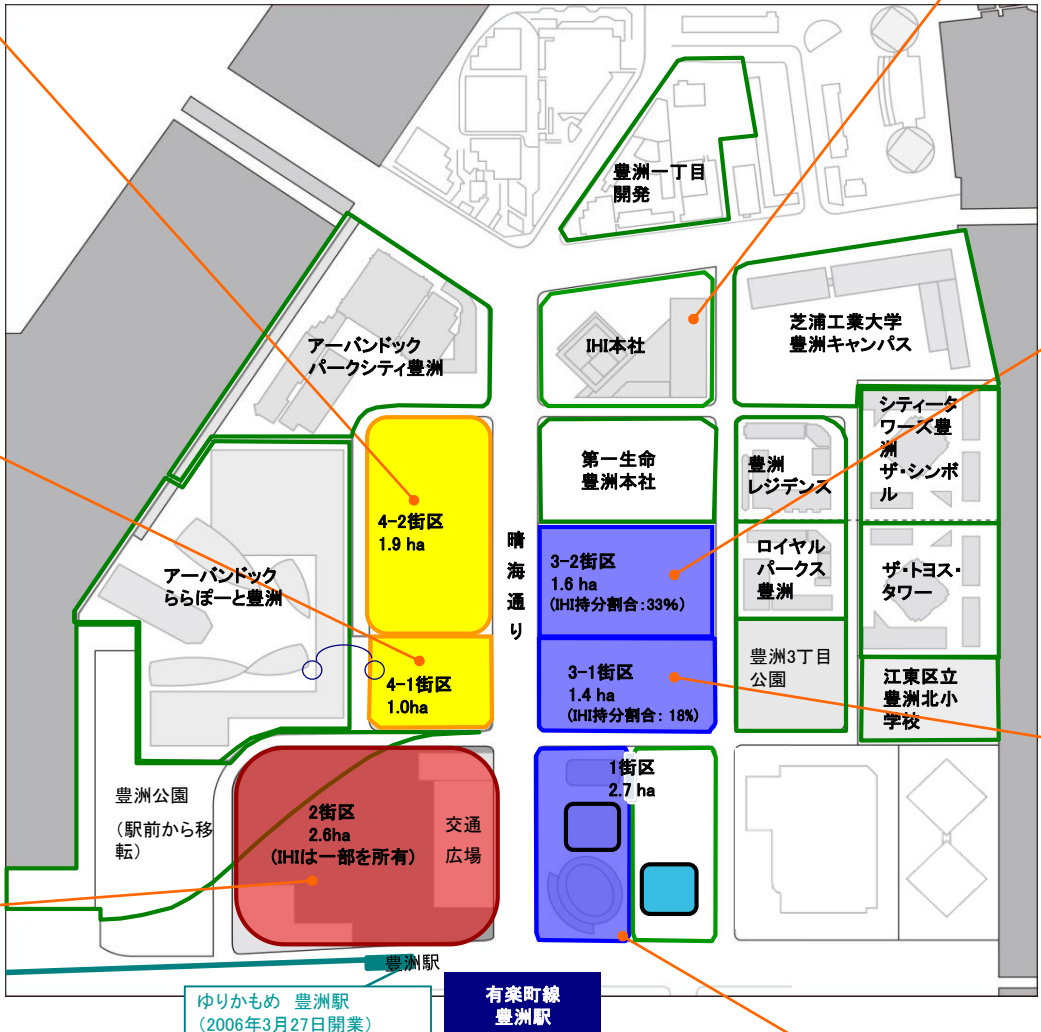
幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場
敷地面積：19,492㎡
2010年3月～2011年2月竣工



アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡
2006年10月開業



豊洲ベイサイドクロスタワー (AC棟) (IHI, 三井不動産)
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡
2020年3月竣工

豊洲IHIビル
地上25F, 高さ：約125m, 延床面積：97,617㎡
2006年2月竣工



豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所 (SPC))
地上16F, 高さ：約75m, 延床面積：101,503㎡
2014年7月竣工



豊洲フロント (IHI, 三菱地所 (SPC), 三菱UFJ信託銀行)
地上15F, 高さ：約75m, 延床面積：106,861㎡
2010年8月竣工




シビックセンター棟：2015年9月開業
消防署棟：2016年6月竣工

IHI所有地	約5ha
--------	------

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 建物賃貸(借地)
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

豊洲センタービル
地上37F, 高さ：約165m, 延床面積：100,069㎡
1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
地上33F, 高さ：約150m, 延床面積：105,448㎡
2006年8月竣工



※1 都市再開発法で定める手法の一つ

IHI

Realize your dreams

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際に業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。